

# きんもくせい

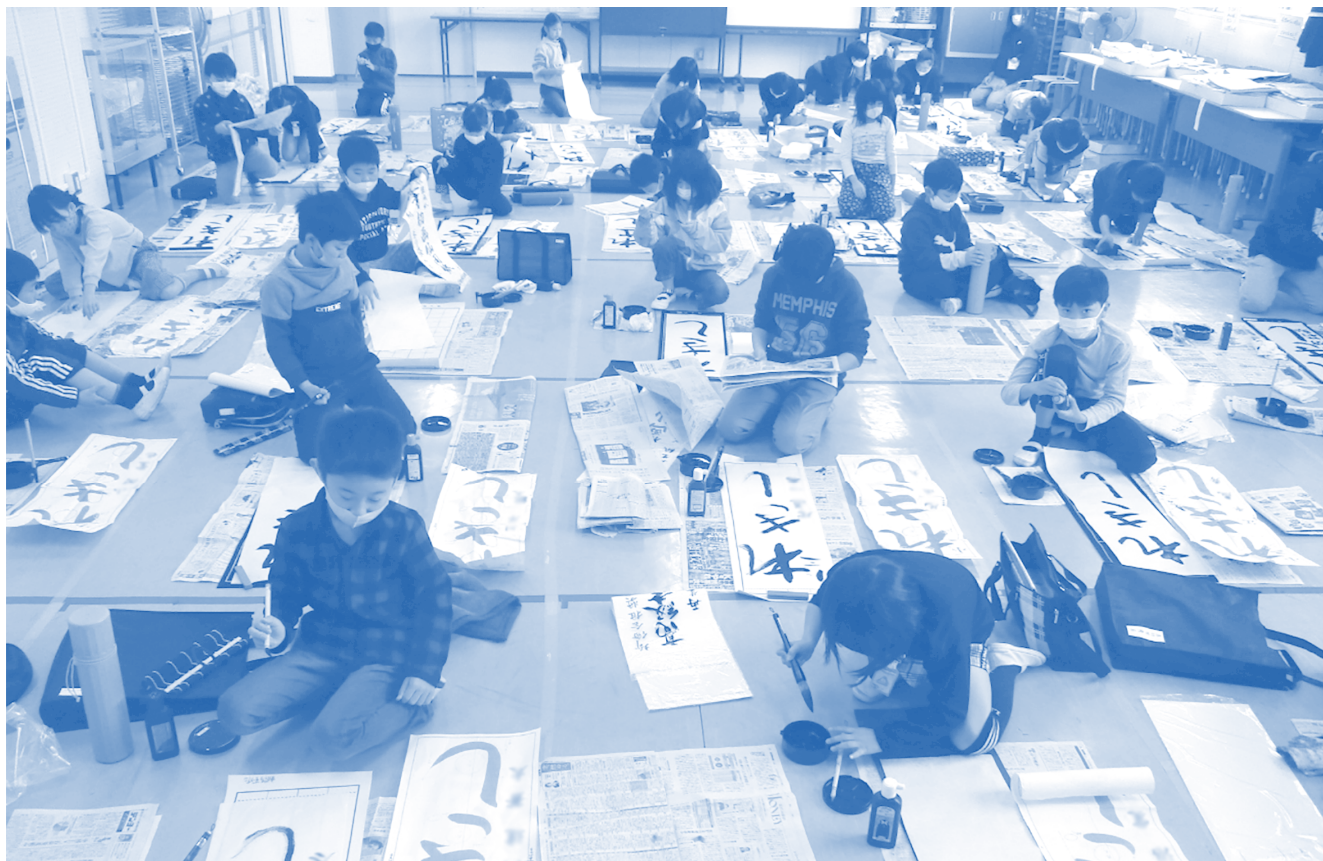
令和3年 学校教育だより

March **3** 第348号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会  
発行・埼玉県富士見市教育委員会  
電話・049-251-2711 (内線623)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



「いい字を書くぞ！」書初め競書会

写真提供／水谷小学校

「スタート！」

針ヶ谷小学校六年

植田 結衣

六時半

めざまし時計が鳴り響く

朝だ

一日の始まりだ

私のお腹が

「キュルル」と鳴る

食欲旺盛

エンジン全開

しっかり食べて

よい一日のスタートを切ろう

「おはよう」

みんなの笑顔と元気な声

今日もきつと楽しいことが

まっている

できることを、できる範囲で

小学校と中学校は、それぞれ子どもたちの発達段階に合わせた教育を実践していくため、教育課程が異なります。授業時間や部活動等、そしてなによりも学校行事は規模も内容も大きく違ってきます。また、今年度は「コロナ禍での学校生活・授業」といった「学校の新しい生活様式」で過ごしている児童生徒。昨年度まで行っていた学校行事が規模を縮小しての実施延期または中止にせざるを得ない状況下にもある中で、小学校と中学校との連携した教育活動を実施することはかなり難しく、簡単ではありませんでした。

しかしながら、中学生と小学生との交流により、中学生の様子を知ることが、小学校の児童にとって、自分のお手本となる人ができ、あこがれをもつ存在につながっていくと考えます。

そこで今年度は、できることをできる範囲で連携していくこととなりました。

授業での連携

二学期に入り、今年度は西中学校の数学担当の先生に一週間に一回、算数を教えてもらっています。五年生・六年生の算数の授業を中心に、入っていたいでいます。児童は最初、中学校の先生ということもあり戸惑っている様子も見られましたが、少しずつ慣れて、今ではすっかり打ち解けています。

五年生・六年生の算数は、より専門的になり、難しい問題も増えてきます。加えて中学校一年生で学習する数学の基礎にもなります。中学校で

# 小中一貫教育

## ～身近な関係・すぐそばのあこがれの存在～

指導者 関沢小学校 主幹教諭 田村 和彦

歌の指導が難しく、ハミングや口ずさむ程度の授業しか行えない中、西中学校から合唱コンクールで金賞を獲ったクラスに、その歌声を披露してもらおう機会を設定してもらいました。少しでも子どもたちに中学生のすてきな歌声を聞かせてあげたい…との思いで、音楽朝会の際に小学校の体育館に来てもらい、目の前で中学生の合唱を聴くことができました。



も六年生の表情からは、「すごいな。」「カッコいいな。」「あこがれるな。」という気持ちの伝わりが伝わってきます。子どもたちの心の中に、目標となる先輩達の姿が、しっかりと刻み込まれた瞬間でした。

数学を教えている「専門の先生」。その「専門の先生」に小学校の時から、勉強を教えられてもらえることは、小学生にとっては大きな経験です。「わからなかったところをわかるまで教えてくれた。」「算数が好きになってきた。」「という声が、児童から聞こえてきます。そして来てくださっている先生も、「今見ている児童が、一年後・二年後に西中学校に来てくれるのが今から待ち遠しいです。」と続していきたいです。

中学生の歌声



今年度は様々な場面で、大きな変化がありました。特に

あいさつ運動

十一月、学校の正門と唐沢門の二カ所で、クラスごとに分担して、朝の登校時にあいさつ運動を行いました。マスク越しに「おはよう。」「おはようございます。」という、明るい子どもたちの声が飛び交います。そんなあいさつ運動の期間中の十一月九日(月)から十一日(水)の三日間、応援が来てくれました。西中学校の生徒会のメンバーです。



終わりに

今年度は、新型コロナウイルスにより、「学校の新しい生活様式」を基本に学校がスタートし、様々な制約・制限の中、子どもたちにとって有意義となる実践を模索し、できることからおこなっていました。今年度の交流を通して、小学校の児童は身近にあるあこがれの存在に気づき、中学校に対する期待が大きく膨らんだことと考えます。小さな積み重ねではありますが、来年度も引き続き、交流を重ね、さらに小中一貫教育を推進していきたいと思っています。

特別支援教育

多様な学びの場

「通級指導教室」

ふじみ野小学校 教諭 新井 美由紀

本市には、富士見台中、諏訪小、ふじみ野小の三校に通級指導教室が設置されています。市内の小中学校から、子どもたちが安心して楽しい学校生活を送ることができるよう支援しています。

共に定期的に通室しています。通級指導教室で大切にしていることは、子どもたちのよいところを伸ばす指導です。きめ細やかに、かつ弾力的に提供できる教育の一形態です。ここでは、子どもたち一人一人子どもたちは自分に自信をも

つようになりません。子どもたちが自信をもって伸び伸びと学校生活を送り、その自己実現を支援するための多様な学びの場が「通級指導教室」なのです。

通級指導教室担当として、子どもたちの在籍する学級が、一番の安らぎの場所であることを願い、子どもたち、保護者の方、学級担任の先生方を、つなぐ支援を意識して指導していきたいと思っています。

指導講評

関沢小学校 校長 藤谷 健二

西中学校区(西中、関沢小、針ヶ谷小)は富士見市内で唯一、二校の児童が全て、西中学校に進学するという恵まれた学区域となっています。また、本校と西中学校とは、間に道を挟んで併設しています。この立地条件を最大限に生かして、様々な場面・機会を連携できると考えています。

有効かつ具体的な実践であったと思います。特別に何かを行うということではなく、今行っていることを生かしながら、児童生徒の九年間の成長を意識して、できることから実践していく。このことが持続して児童生徒たちの教育をつないでいくことになると考えます。今後とも「学びをつなぐ」学習連携、「生活をつなぐ」児童生徒連携、「心をつなぐ」学校行事連携の3つの柱を基本に、また、地域の方々との声も取り入れながら、「学校をつなぐ」学校間連携の充実と推進を図ってまいります。



みずほ台小学校 3年 荒井 奏風

消防しょ見学で学んだこと

消防しょに行き心に残ったのは、くんれんの様子を見せてもらったことです。す早く人を助けて、すぐに火事が起きている家から出てくるところがとてまかっよかったです。友だちから出たしつ間に「今まで何人ぐらいの人を助けたか。」とありましたが、「何人とは数えていませんが、助けられない命もありました。それがとてもくやしいので日々くんれんを重ねています。」と言っていた消防士さんはすばらしいと思いました。

もし、これから自分自身が防さいくんれんに参加することがあったとしても、ゆだんをせずに、真けんに取り組むことが大切だと思いました。



### 生きる力をはぐくむ

つるせ台小学校 保護者 味戸 良輔

小学六年生の一人娘とは、対話することを重視して生活しています。話を聞き、様々な事柄について語って聞かせ、家族で対話してきました。何でそう思うの？こうは考えられない？というやり取りを繰り返してきました。材料は、テレビドラマやアニメの内容から時事問題に至るまで様々です。

自分の意見をもつこと、自分の意見を理由とともに相手に伝えることの訓練になったと思います。それが、大人の世界に好奇心をもちすぎる結果になり、「子どものくせに生意気な。」となることもしばしばありましたが、納得するまで確認したいという姿勢や、自分自身でも理屈を理解したいという姿勢に結び付いていったと思います。

また、ルールやマナーを守る重要性や、場に対する配慮を常々対話の中に織り交ぜていたのが、集団の中の規範意識が高い子に育ったように思います。

今や、何事にも理屈が通らないと納得しません。しかし、周囲に気を配れる心の優しい子になったとも感じています。



私がPTA会長を引き受けたのも、「なり手がいなくて困っているならお父さんやってあげなよ」という娘の言葉があったからです。人と人との関係は、対話抜きでは進んでいかなないものだと思います。これは、どんな世の中になったとしても人が生きていくために最も必要なことだと思っています。

「挨拶」を大切にしたいです。



### 体育からスポーツ科学へ

一人一台タブレット時代に向けて

つるせ台小学校 教諭 佐久間 彩花

六年生の体育における器械運動は、球技などと比べると、苦手意識をもっていたり自分がどう動いているか分りにくかったりする単元でもあります。

従来は、手の着き方や体の曲げ伸ばしを横で見ていた教員や友達が口頭でアドバイスをしていました。最近では、自分の動きを友達に撮影してもらい、友達と一緒に一時停止させながら再生したり、お手

本と比べたりして確認します。スポーツは自分の「くせ」に気づくことが上達の近道です。「できたつもりだったけど、膝の伸ばし方とかできていないところが分かった」「友達にアドバイスしながら、自分ももっと頑張ろうという気持ちになった」など、児童からは前向きな感想が見られます。

来年度からの一人一台タブレット導入を見通し、デジタル時代こそ仲間と高め合うコ



### 教育課題特集

# 生きる力を はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

### 「6色の情熱と感謝を!! 富士見台中学校 輝け!青春の1ページ」

根本 博樹

コロナ禍の中、生徒たちが願うことは、いつもの学校生活“を過ごすこと”です。特に学校行事に向かうエネルギーが凄まじい台中生。先輩たちが築き上げてきたものを進化させ続けた体育祭と合唱コンクール。「今年も盛り上げたい」と思った生徒も多かったでしょう。大幅短縮の体育祭。男女に分けた演舞を企画し、男子は糸乱れぬ集団行動、女子は生徒たちが考えた創作

ダンスを披露してくれました。台中恒例の「縦割り」を生かしつつ、ソーシャル・ダンスに配慮した大縄跳びをやり切りました。合唱コンクールも感染予防を徹底し、練習形式を工夫しながら自由曲1つに気持ちを込めて素晴らしい合唱をつくり上げてくれました。開催後は生徒たちから、行事ができたことの喜びの声と開催に向けて力を尽くしてくれた先生方や保護者



の方々への感謝の言葉があふれました。台中生は今もこれからも逞しくその力を発揮していきます。

### 挨拶の大切さ

東中学校 保護者 北川 恵

私には中学二年生の娘がおります。ある程度身の周りの事ができるようになったので、やりたい事は本人に任せています。しかし、子どもにこれだけとは伝えていないのが「挨拶」です。朝起きて家族に、登校中は交差点で見守ってくださる地域の方々に。学校では先生や友人に、と。「おはよう」「いってきます」「ありがとう」「ごめんなさい」・・・人と接する上で、短ければとて

も大切な言葉だと思っています。学校では学年委員、そしてバレーボール部では部長として周囲を引っ張り、まとめる役割をしています。東中正門での「挨拶運動」で当番の日の朝は、自ら早起きをして登校します。先生から「気持ちのいい挨拶だね。」と褒められた時は嬉しかったそうです。部活動では、仲間への声かけをしています。顧問の先生からは、「挨拶・態度・気遣い

### 出会いに感謝して(針ヶ谷小学校にて)

淑徳大学 学生ボランティア 鈴木 莉奈

大学一年生で初めて小学校を訪れた際、緊張していた私に声をかけてくれた児童がいました。その子がきっかけとなり、学習や普段の生活を通して、他の児童とも関わりことができました。

何かに対して取り組む児童の目は輝いていて、とても素敵でした。苦手な算数の問題に向き合い、「わかった!」という言葉と笑顔を貰えた時は、私も嬉しくなりました。

そのような児童との関わりを通して、教諭という職業が、憧れから目標に変わりました。きっかけをくれた児童も卒業し、もう中学生になりました。本当にあつという間でした。ですが、私にとってはあつという間でも、児童にとつては貴重な時間だったのではな

児童との別れは寂しいものですが、新しい環境でも出会いに感謝し、児童と共に学び続けていきます。





勝瀬中

「朝イチ学習会」

今年から朝学習をはじめました。朝日差し込む教室で黙々とあるいは教え合い、寒さに負けず頑張っています。



西中

助産師櫻井先生の「命の授業」

性についての正しい知識や命の大切さについてのお話をいただきました。



関沢小

寒さに負けず、心をこめて

毎年恒例の清書会。今年は感染防止のため窓を開けて換気をしていましたが、子どもたちは冬の冷たい空気に負けず一文字一文字を丁寧に書きました。

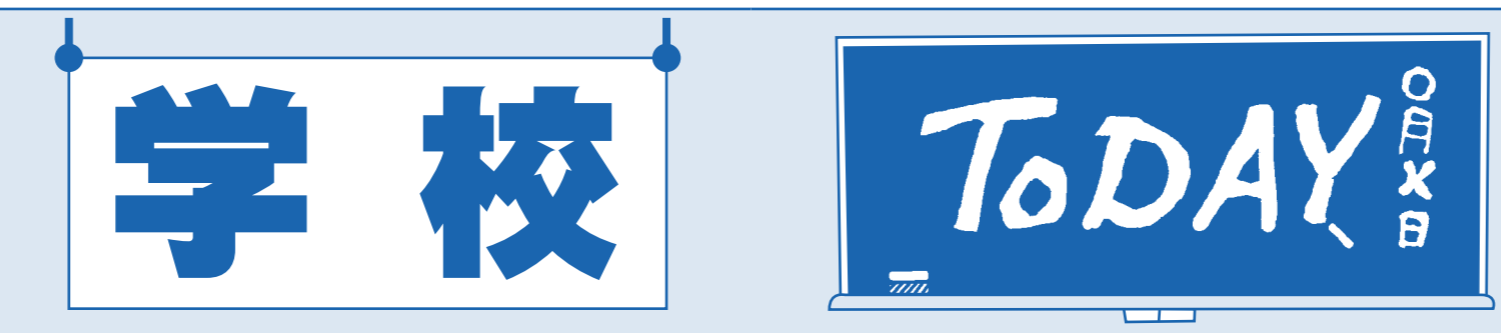
今年度は、コロナウイルス感染症の影響もあり、例年とは違い、制限のある中で各学校が試行錯誤しながら、子どもたちが活躍できるように努力してきました。写真を見ると、子どもたちの真剣な姿勢や無邪気に遊ぶ姿があり、このような状況下でも一生懸命頑張っている様子がうかがえます。来年度も、子どもたちの生き生きとした姿がお伝えできるように、各学校でも引き続き努力していきます。今後とも温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



東中

「サンタが東中職員室にやってきた」

今年度から設置された「いなほ学級」の生徒達が、ハンドベルによるクリスマスソングを職員室へプレゼントしてくれました！



勝瀬小

「仲よしタイム」

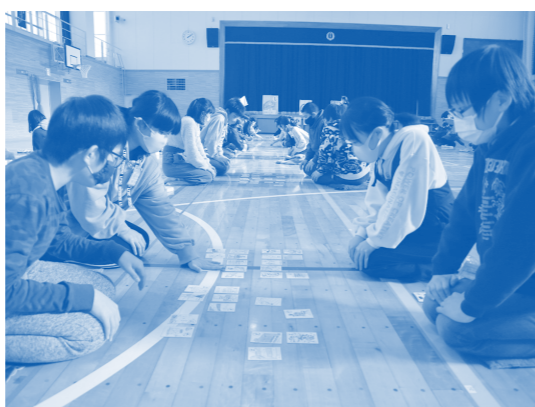
異学年交流により、自尊感情や規律意識、リーダーシップ、フォロワーシップ等を学んでいます。



水谷東小

校庭でキャンプファイヤー

コロナ禍で宿泊学習が中止になったため校内で行われた林間学校。いつもとは違う雰囲気夜の学校で、目一杯楽しむことができました。



針ヶ谷小

思いをつなぐかるた大会

先輩方の思いが詰まった針小郷土かるた。今年もまた針ヶ谷小の伝統をつなぐことができました。



諏訪小

興味津々！消防見学！

消防士さんのお話を真剣に聞き、市民のくらしを守るためのしくみや訓練を学ぶことができました。



みずほ台小

たこたこ、あがれ！

ビュービューと木枯らしが吹きすさぶ中、1年生の子どもたちは、たこあげを楽しみました。寒さに負けず元気に過ごしています。

【富士見市児童生徒体力向上推進委員会より】

文部科学省から示された「学校の新しい生活様式」に基本的な感染症対策が3つ挙げられています。

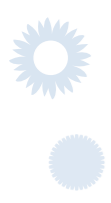
- (1) 感染源を断つこと
- (2) 感染経路を断つこと
- (3) 抵抗力を高めること

(1)、(2)については生活の中に定着してきています。手洗いの習慣、マスクの着用、毎日の検温と体調管理がこれに当たります。また、身の回りの消毒だけではなく、清掃、片付けによって清潔な環境を保つことも感染経路を断つことにつながります。

(3)については、免疫力を高めるために「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスのとれた食事」を心がけることが大切です。この3つのサイクルを無理なく続けることで、免疫を上げる原因のストレスも軽減できます。

取り組みやすい運動の一つに「縄跳び」があります。時間を決めて飛び続けることで持久力をつけることができます。また、技の練習に取り組むことで、巧みな動きを身につけることができるとともに、練習を続けることにより自然と体力もついてきます。また、縄を使ったストレッチも柔軟性を高めるために効果的です。

縄跳びのような運動遊びは、子どもたちの基礎的な体力や、動きの発達の向上だけでなく、家族や仲間と一緒に遊ぶことで、人間関係やコミュニケーション能力が育まれるなど、子どもの心身の発達にとっても効果的です。ご家庭でも楽しんで取り入れていただけたらと思います。



# 教育委員会だより

## 卒業おめでとうございます

春の暖かな日差しの中、市内小・中・特別支援学校の卒業生の皆さんが新たな門出を迎えます。保護者の皆さまには、お子様の成長を振り返り、感慨もひとしおのことでしょう。

現在も続いている新型コロナウイルス感染症の影響で、本市においては、今年度の卒業式も、縮小しての開催となります。本来であれば、学校教育の節目として、在校生、地域の方、教職員全員で祝福するところではありますが、新型コロナウイルス感染拡大防止策にご理解そしてご協力くださるようお願いいたします。

卒業生のみなさんが、このような状況の中、いろいろな思いを抱きながらも、希望や夢を持ち続け、新しい場所で、たくさんの人との出会いを通して、心豊かな人に成長することを願っています。

在校生のみなさんは、4月から1学年ずつ進級します。このような状況の中でも、新しい目標に向かって、たくましく元気に学校生活を送りましょう。そして、新しく入学してくる仲間をあたたく受け入れ、それぞれの生徒が新年度のスタートを迎えましょう。

### 令和三年度富士見市立小・中・特別支援学校新入児童生徒見込数

入学見込み人数は1月20日現在

|           | 入学見込人数                            |
|-----------|-----------------------------------|
| 鶴瀬小学校     | 85人                               |
| 水谷小学校     | 140人                              |
| 南畑小学校     | 49人                               |
| 関沢小学校     | 84人                               |
| 勝瀬小学校     | 90人                               |
| 水谷東小学校    | 36人                               |
| 諏訪小学校     | 119人                              |
| みずほ台小学校   | 56人                               |
| 針ヶ谷小学校    | 53人                               |
| ふじみ野小学校   | 85人                               |
| つるせ台小学校   | 105人                              |
| 富士見台中学校   | 187人                              |
| 本郷中学校     | 115人                              |
| 東中学校      | 82人                               |
| 西中学校      | 125人                              |
| 勝瀬中学校     | 228人                              |
| 水谷中学校     | 101人                              |
| 富士見特別支援学校 | 小学部 2人<br>中学部 5人<br>高等部 6人 (重複1人) |



## クラスの横顔

私のクラスの「朝の会」は十人十色、日直によって毎日雰囲気がちがう。  
ある日の日直は卒業後に企業で就労を目指す生徒。背筋を伸ばし、礼儀正しい言葉遣

いで進めていく。

次の日の日直は発語の少ない生徒。教員が支援する。

教員「これから朝の会を始め」日直「ますー！」

教員「今日の給食、給食係さん

### 朝の会

富士見特別支援学校

高等部教諭

森 由紀子

お願いし」

日直「ますー！」

ある日は体調不良により日直の言葉が出てくるのに時間がかかった。

日直「起立」

（約二分）

日直「気をつけ」

（約二分）

みんな立ったまま日直の言葉をじつくり待つ。発語がある生徒もない生徒も、音に敏感な生徒も、おしゃべりが大好

きな生徒も、全員がひたすら待つのである。生徒たちは思

いやりとか、〇〇さんのために、というようなことを考

えているのだろうか。おそらく自然ななりゆきを受け入れ、

日直のスタイルに合わせてい

るだけである。

私はこのクラスの生徒たちを誇りに思う。私は特別支援教育に足を踏み入れてから

「共生社会」「インクルーシブ」等の言葉に触れ、どうあるべ

きか考えるようになった。しかし今、生徒の横顔を見ると

当たり前に体現している姿がある。難しく考えずにこうい

うことなのだと思ってしまう学んだ。私の教員人生にとつ

て糧となる経験である。

### 編集後記

臨時休校の中、スタートした令和二年度も、あっという間に卒業式を迎え、今年度の修了の時期となりました。六月に再開された学校ですが、運動会や体育祭、林間学校や修学旅行といった学校行事をはじめ、様々な行事の延期や中止、変更も余儀なくされました。通常の学校生活でも、マスクをしたり、友達との距離をとったり。友達とのおしゃべりで盛り上がりつつあった給食の時間も、前を向いて、自分の机で黙々と食べなければなりません。でも、そのような皆さんの制限がある中でも、子どもたちが毎日、元気に学校に登校し、できることに精一杯取り組みながら、楽しんで過ごせたことが、何よりうれしかったことです。特に、入学式後、ずっとお休みだった一年生が、学校や友達に慣れることができるとても心配でしたが、そんな心配もすぐに消えてしまいました。彼らは、まるで二ヶ月間のお休みがなかったかのように、あつという間に学校になじんでいきました。さて、温かい日と寒い日が繰り返されながら、季節はだんだんと春の桜の開花予想では、今年度のソメイヨシノの開花は、全国的に平年より早い地域が多いそうです。その予想によれば、一番早い東京は、三月十八日。東京に近い埼玉県では、おそろしく同じ頃。この「きんもくせい」がみなさんの手に届くとともに、桜が咲き始めることになりそうです。いつもとは違った一年でしたが、みなさんのご協力により、今年度も、四号を発行することができました。ありがとうございます。

桜が満開の花を咲かせ、その花びらがひらひらと舞い散った後、子どもたちの笑顔が満開に咲きほころぶ四月を迎えられますように。（江口）